



2023年度 年主題「ともにつむぎだす～希望の中で～」

0・1・2歳児 12月主題「うれしいね」

月のねがい
 ◎保育者や友だちと一緒にクリスマスを感じ、絵本やさんびかを楽しむ。
 ◎保育者や友だちと喜びを言葉や身体で表す。
 ◎風や空気の冷たさ、日の入りの早さなどを感じ、冬の訪れを感じる。

3・4・5歳児 12月主題「喜びあう」

月のねがい
 ◎イエスさまが私たちのためにお生まれになったことを知り、喜ぶ。
 ◎遊びを通して、友だちと心をつなげる経験をする。
 ◎日常生活の中でクリスマスの喜びを表現すること、分かちあうことを経験する。
 ◎鬼ごっこやルールのあるゲーム遊びなど、寒さの中でも戸外で身体を動かすことを楽しむ。

園内研修のご協力に感謝です！

私たち保育者は、保護者のご協力を頂いて、定期的に園内研修を行っております。先日も、日々の保育の振り返りを通して、幼児理解を深めるための意見交換を行いました。園生活で見られる子どもの姿をそれぞれ書き出して心身の状況を話し合い、子どもの気持ちを読み取り、個々の言葉掛けや援助の工夫を考えていきます。年齢別のグループに分かれての取り組みでしたが、話は尽きずあつという間に予定時間となりました。

今後園内研修やミーティングを重ね、子どもと保育者が共に「楽しいね！」「やってみようね！」「またしようね！」など心躍らせることを探求していきたいと思っております。何より子どもたちが主体的に取り組めるための環境（モノ・自然・人）を整えていくことが大切です。子どもの気持ちに寄り添えるよう、保育者自らを高めるよう研鑽してまいります。

いよいよクリスマス会の稽古も始まりました。今年度は初めての試みで、3歳児が「世界の始まり」の表現遊びに取り組みます。どうなることでしょうか。また、例年のとおり聖劇ではオーディションを行い、希望する役を勝ち取った子、希望する役にはならずに悔しい思いの子もおります。クリスマス会の稽古前から様々なストーリーが生まれています。希望する役になれなかった子も、今は自分で気持ちを切り替え、与えられた役に一生懸命取り組み始め、クリスマス会に向けて気分を高めているところです。子どもたちや保護者の皆さんと共に、クリスマスの本当の意味を知り、お祝いできたらと思います。だんだん寒くなりますが、残り少ない2学期を元気に過ごせるように。園でも自宅でも体調には気を付けてまいりましょうね！

＝こどものつぶやき＝
 季節の歌を楽しんでいる子どもたち
 「げんこつ山のたぬきさん」を自分から口ずさんでいた1歳児のK君です。よ～く聞いてみると「だっこして♪だっこして♪あ～りがとお♪」と歌っていました。♡可愛い歌声と歌詞にホッ！しました♡ 主任 伊豆元

今月の聖句 「今日ダビデのまちで、あなたがたのために救い主がお生まれになりました」

ルカ2:11
 先日、大阪のユニバーサル・スタジオ・ジャパンに、30メートル超の巨大クリスマスツリーが飾られ、点火イベントが行われました。その前に待ちわびた来園者たちが色とりどりのペンライトを灯して、楽しそうに、嬉しそうにしている光景をニュースで見る機会がありました。平和な日本だからこそ、可能となった光景です。

片や地球の裏側では、イスラエルとパレスチナ・ガザ地区のハマス武装勢力との戦争が続いています。イスラエルの中心地エルサレムは、イスラエルが王国を持った時代に作られました。その王がダビデでした。宗教的に、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教の聖地とされる都です。ですから、エルサレムという聖地が戦場になることはなくとも、そこから数十キロ離れた地で争いが続いています。日本という平和な国に住む私たちに理解出来ない惨事です。

そのような地球上最も危険な場所で、救い主イエス・キリスト、平和の君がお生まれになられたというのは、まことに皮肉なことです。けれども、見方を変えれば、そのような苦しみや悲しみ、痛みをともなう中からこそ、救い主は現れるとも言えるのです。私たちは自分の身に不幸が降り注がないことを望みますが、人生はそんなに甘くはありません。しかし、そのような苦しみの中で見出した神は、私たちに力を与えます。今も世界中の人々がクリスマスを待ち望むのは、まさにそのようなことと関係しているのではないのでしょうか。

協力牧師 池田基宣

12月の行事予定

9日(土)	クリスマス会・弁当日
15日(金)	もちつき大会
19日(火)	12、1月誕生会(2才以上)
21日(木)	終園式(1号午前保育)
28日(水)	弁当日
29～1/3	年末年始の休園日

1月の行事予定

6日(土)	役員会
9日(火)	始園式(1号午前保育)
13日(土)	熊本地区研修(職員研修)
23日(火)	おゆうぎ会予行・弁当日

1号認定児 入園申込み受付開始 12月1日(金) ご紹介を宜しくお願いします！



兄弟にほほえみかけ、助けの手を差し伸べるたびに、それがクリスマスなのです。 マザー・テレサ



クリスマスを迎えるにあたって

クリスマスはイエス・キリストの誕生を祝う日です。約2千年前、ベツレヘムの小さな馬小屋でイエス・キリストは生まれました。イエスを通して、神様からのメッセージを私たち人間に示されました。それは、戦争や餓え、不当な搾取や抑圧に苦しんでいる人々、自分自身の中で葛藤し悩んでいる人たちの希望の光となるためです。

私たち保育者は、キリスト教保育を目指す園として、いかなる人も希望の光を持ってこの世の中で生きてほしいと願い、祈ります。それは見えるものではありませんが、見えないものにこそ大事なことがあることを信じて保育をし、子どもたちにもそのクリスマスのメッセージを伝えていきたいです。

目には見えない困っている人に捧げる？
キリスト教保育連盟「おはなしのこみち」より

あかりちゃんは園で貯金箱を作って持ち帰りました。園の先生が『困っている人にみんなで少しずつ捧げましょう』と言われました。あかりちゃんはお金を持っていなかったのも、お家のお手伝いをしようと思いません。「お母さん、何か困っていることはない？私お手伝いがしたいの。」「じゃあ、窓を拭いてくれる？」あかりちゃんは雑巾を持ってきてキュッキュッキュッと窓を拭きました。お母さんはきれいになった窓を見て「まあ、きれいになったね。ありがとう」そう言ってお金をくれました。あかりちゃんはそのお金を貯金箱の所に持ってきて、「神さま、今窓を拭きました。きれいになってお母さんがありがとうと言ってくれて嬉しかったです。このお金を困っている人のために使ってください」チャリンと入れました。するとお母さんもやってきて、「神さま、あかりちゃんが窓を一生懸命拭いてくれて嬉しかったです」そう言ってお母さんにお金を入れました。あかりちゃんはお金が入ったこの貯金箱を、園に持って行き先生とお祈りしました。「食べるものがなくて困っている人、病気の薬がなくて困っている人に届けてください。」 園長

例年のことですが、短い秋を楽しむと、冬が駆け足でやって来ます。園内は早くもクリスマスツリーやリースが飾られ、玄関前にはイルミネーションが灯され、玄關前にはイルミネーションが灯され、三年間を思いながら、年末年始をお過ごしになることでしょうか。

今年、トルストイの『愛のあるところに神あり』を原作とした絵本、「靴屋のまるちゃん」のお話を紹介させていただきます。ある街に「靴屋のまるちゃん」という名の靴屋が住んでいました。彼の住む地下室のたった一つの窓からは、往來を行き過ぎる人の足が見えました。でも人々の靴を見るだけで、それがだれなのかを見分けることができませんでした。どれもまるちゃんが精魂こめて作り、修理した靴ばかりだったからです。まるちゃんは毎日一生懸命靴づくりを励み、ついに、妻が次々に亡くなり、ひとりぼっちだったため、本当は悲しみでいっぱいだったのです。

そんなある日、まるちゃんは聖書を読みました。そこに書いてある神さまのことばに安らぎを覚え、毎日夢中になって読んでいました。すると、彼は夢の中でキリストの声を聞き、言われたので、いつ来られるのかと、胸がドキドキしました。まるちゃんは、その日、雪かきをしている年とつたおじいさんに気がついたので「すこしあったまっていきたいませんか」と声をかけました。疲れたおじいさんは、まるちゃんの部屋で温まり、元気になつて帰っていき、お母さんを助けました。その人は貧しくても、空腹なうえ、冬なのに夏服を着て凍えそうだったので、その上着もあげました。お母さんも赤ちゃんも、まるちゃんの優しさに温まりました。その後、窓の外で、言い争いの声が聞こえました。少年がおばあさんのりんごを盗ろうとしたので、おばあさんはひどく怒っていたのです。まるちゃんはおばあさんに勧めました。やがて二人は歩み寄り、お互いに気持ちを通わせて帰っていき、お母さんがおばあさんに「雪かきのおかげで、キリストの声がしました。まるちゃん、わたしがわからなかったのか。あれは、みんなわたしたちのだよ」と。雪かきのおじいさんも、赤ちゃんのいる貧しい母親も、争っていたおばあさんと男の子もイエスさまだったのです。キリストは、「まづしいひと、ちからのないひと、びょうきのひと、やいのないひと、なかにわたすはいます」と聖書を通して言われます。

クリスマスが始まったキリストに、一連の出来ごと、天からの有難い「ギフト」そのものです。クリスマスを通して、イエスの降誕の真の意味を共に学び、この世に生かされている驚きと喜びを分かち合い、この世に生かされていることに感謝を込めて、健康に留意され、穏やかな年末年始をお過ごしになりますようお祈りいたします。

学園長

